



いっしょに歩こう！ プロジェクト

日本聖公会東日本大震災被災者支援

News Letter

第13号

2012年9月1日発行



▲ 福島聖ステパノ教会



▲ 郡山聖ペテロ・聖パウロ教会



▲ みその幼稚園（福島市）



▲ セントポール幼稚園（郡山市）

福島(仮称)ベースのこれから

✎ 司祭 影山博美「福島ベースの今後」

大韓聖公会 社会宣教団来訪 2組目のボランティアグループ

東京電力福島第一原子力発電所の爆発によって、各地に汚染が広がっています。福島市と郡山市内にも空中線量の数値の高い場所があります。両市内に日本聖公会の教会と関連幼稚園があります。いずれの地域も日本政府が指定する「警戒区域」外であるため、他地域への移住は個人の判断に任されています。ここに大きなジレンマがあります。人々の心の葛藤は想像を絶します。

県外への避難者は 61,167 人、県内の仮設住宅や借り上げ住宅に住む居住避難者は 93,624 人（福島県災害対策本部、2011年12月末現在）に上ります。子どもの数も激減し、関連幼稚園の園児数も半減しています。現在は、避難をしていない子ども達をど

クッキー買い上げ支援終了

通所作業所 “ワークショップ ひまわり”

う守るかが最大の課題の一つです。

プロジェクトでは、郡山市の郡山聖ペテロ・聖パウロ教会とセントポール幼稚園、福島市のみその幼稚園に、定期的な遠足や除染とそれに伴う諸工事の経費負担や、より安全な遊具購入のお手伝いをしています。

避難を決めて他に移住した人、さまざまな事情で避難をしない人、できない人。支援のあり方も立場の違いを深く斟酌しなければなりません。このような中、被災後1年半を経て「福島(仮称)ベース」が設置されました。影山博美司祭をベース長に、具体的な取り組みが始まろうとしています。

福島ベースの今後

司祭 アントニオ 影山博美 福島(仮称)ベース長／仙台聖フランシス教会牧師／福島聖ステパノ教会管理牧師

去る7月1日に発行された「いっしょに歩こう！プロジェクト」中間報告書に福島からのレポートとして『6月28日に開催された「いっしょに歩こう！プロジェクト」の運営委員会では、「福島(仮称)ベース」の設置が決議され、具体的な支援活動のための新たな歩みが進められようとしています』と記されています。「福島(仮称)ベース」(以下、「ベース」と表記)設置までのいきさつは中間報告書をご覧ください。ただこととして、表題の通り、「ベース」の今後についてご報告申し上げます。

ベース立ち上げのプランとして次の項目を掲げています。

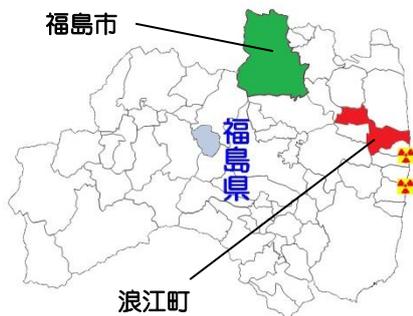
1. みその幼稚園開設

「わくわくルーム」への参画

福島に避難している放射能に苦しむ方々の傍らに立ち、その思いを分かち合おうとするプランです。「命」の視点から、特に小さいお子さんがいる若いお母さんたちへの関わりを基盤としておりますが、中間報告書にも記されている通り、当初は場を教会と考えていましたが、線量の高さが危惧され、みその幼稚園が場の提供を申し出てください、また、園のプログラムであり未就園の子供たちを含め園の地域開放を目的とする「わくわくルーム」への参画あるいは「ベース」独自での展開も検討しています。場合によっては教会での実施も視野に入れています。

2. 仮設住宅への関わり・支援

福島市には主に浪江町の方々が避難されており、仮設住宅が市内各所にあります。原発事故から間もなく1年半。その間、個々には色々な支援をされてきた方もいらっしゃると思いますが、プロジェクトとしては関わりを持ってきませんでした。支援としては遅きに失した感がありますが、原発問題はまだまだ先が見えていません。避難生活をされている方々も様々な不安の中で生活されています。教会の近くには15世帯29人(7月訪問時)が生活されている仮設住宅があり、ご高



齢の方が殆どであることから、同町のサポートセンターにもうかがって、ニーズがあれば支援させて頂きたいと考えています。

3. 除染の支援(福島県内教会・幼稚園)

今まで度重なる除染活動をしてきた福島・郡山の教会及び幼稚園は未だに放射線量が高い状態が続いています。特に郡山聖ペテロ・聖パウロ教会とセントポール幼稚園は大掛かりな除染が必要とされています。みその幼稚園も園庭の遊具が汚染されていましたので、新たな遊具の購入を支援しました。そして小名浜、会津若松の状況も把握していきたいと思っています。

4. 谷主教の常駐

この7月より、前沖縄教区主教・谷昌二主教が福島に常駐されています。谷主教の常駐によって教会並びに「ベース」の活動全般を現地担当として担って頂けることになったことは大きな喜びです。また、福島聖ステパノ教会の礼拝は、月の第4日曜日は横浜教区から教役者が派遣されて聖餐式が行われていますし、横浜聖アンデレ教会も福島を支援するグループの信徒の方が福島へお出でになり、ともに礼拝をささげてくださっています。

5. 福島子どもプロジェクト継続

青葉静修館を利用して子供たちやそのご家庭の方々にリフレッシュして頂ける活動を進めています。



まだまだ粗削りなプランでしかありません。今後更に練って、少しでも福島原発事故で苦しんでいる方々のサポートをしていければ、と思っております。皆様のご協力・ご支援・お祈りを何卒宜しくお願い致します。

■宮城・福島県各所

／大韓聖公会社会宣教グループ

今年5月に大韓聖公会訪問団が来日された際、金根祥^{キムグンサン}首座主教との話の中で定期的に韓国よりボランティアを受け入れるということになり、今回が2回目のボランティア受け入れとなった。来日したのは外国人福祉館や、障がい者・高齢者福祉施設に勤めている6名（引率の司祭含む）の方々。前回は室根聖ナタナエル教会の旧伝道師館の解体作業を手伝っていただき、今回は南三陸町の外国人支援プログラムや新地町の仮設訪問、ベース整備などをお手伝いいただいた。毎回その時の状況に合わせたお働きをしてくださっている。

1週間滞在し、帰国。↓写真①



■いわき市（福島県）

／ほっこりカフェのその後

昨年秋より泉玉露^{イミダ}急仮設と渡辺町屋野仮設に定期的に訪れ、「ほっこりカフェ」がスタート。お茶やお菓子を食べながら集まることが心の癒しになればと継続してきた。ベース2年目の活動に入ると仮設住宅の住民が自らボランティアとして集い、今までのほっこりカフェが社会福祉協議会を中心とした住民たちに引き継がれた。プロジェクトの活動としては理想的な形であり、今後もこのような支援を続けていきたい。↓写真②



■岩手・宮城・福島県各所

／英会話教室開講

日本に嫁いできた外国人女性を対象に、英語教師養成講座を開催してきた。講座の修了生が本格的に英会話教室を開くために、仙台、石巻、いわきで準備が進められている。すでに仮設住宅、小学校、公民館などで修了生による英会話教室が開講。陸前高田、石巻の幼稚園でALT（英語補助教員）として働いている方も。←写真③

■一関市（岩手県）

／行ってみよう！ムロネーランド

これまでに外国人支援で出会ってきた家庭の子どもたちを対象に、室根聖ナタナエル教会でキャンプを行った。その名も「ムロネーランド」。7名の子どもたちが多賀城市、石巻市、南三陸町から集まり、地元室根の子ども達も飛び入りで参加。3日間「ムロネーランド」を楽しんだ。↓写真④

※詳細は次号でお知らせする予定



■釜石市（岩手県）

／仮設プログラム

「歌を唄う会」という新しい仮設談話室でのプログラムが始まった。ベースのスタッフはプログラムを行うにあたり、事前に仮設でニーズ調査を行う。そこで希望が多く、意欲が高いものを定期プログラム化する。住民の意欲を形にし、自主性を高めていくことが狙い。ただ歌を唄うだけだったのが回を重ねるごとに「もっとちゃんと唄いたい」「コーラスをしたい」という意見が続発。これからどんな進展をみせるか楽しみだ。

知的障がい者のための通所作業所

ワークショップひまわり クッキー買い上げ支援終了

1年間の約束で始めたクッキー買い上げ支援が8月で終了しました。全国の教会などでご利用頂いたことで、仕事生まれ、工賃が支払われ、オープン購入のお手伝いことができました。新オープンは、毎日フル稼働で、商品の幅も作業の幅も広がったとの嬉しいメッセージが届いています。プロジェクトの買い上げ支援は終了ですが、ひまわりの商品は全国からご注文頂けます。ホームページから注文用紙を入手して、FAXでご注文下さい。新商品も開発中で、その様子はプロジェクトのホームページでも紹介していきます。どうぞ、変わらぬご支援をお願い致します。

ホームページ http://www.nskk.org/walk/doc/himawari_fax.pdf

TEL/FAX 0226-24-8255



仮設支援

- 体操プログラム／釜石市（上中島仮設）
- お料理会／釜石市（野田町仮設）
- 俳句を楽しむ会／釜石市（大畑東仮設・松倉仮設）
- ▲買い物バスツアー／名取市（箱塚桜団地）
- ◆お茶会、バザー／新地町（広畑仮設）
- ◆ほっこりカフェ
／いわき市（泉玉露仮設・渡辺町屋野仮設）
- ◆さくらさかずウ制作／いわき市（泉玉露仮設）

その他にも…パッチワーク、ネイルアート、座布団配布、談話室プログラム等／平七まつりの七夕飾り作り、子どもプログラム など

外国人支援

- ▲個別支援（子ども達の学習支援、役所、職業安定所への付添いなど）／石巻市、南三陸町、多賀城市
春休みに引き続き、長期休み宿題お手伝いプログラムを開催。主に外国人の子どもを対象に声をかけると、当日はその友達や兄弟なども参加し、賑わった。休憩時間はお菓子タイムや外遊びを満喫。宿題にも真剣に取り組み、「またやってほしい！」との声が多くあった。



- ▲英会話教室開講手伝い／名取市
- ▲手作りプログラム／南三陸町
- ムロネーランド／岩手県一関市
- ◆日本キリスト教団エマオに体内被曝検査依頼／福島県

障がい者支援

- ▲買い上げ支援／仙台市（まどか）、気仙沼市（ひまわり）
- ▲作業補助、新施設開所式参加／仙台市（まどか）

その他

- ▲ナザレの家、青葉静修館などの物資整理／仙台市
- ◆若松諸聖徒教会引っ越し作業手伝い／会津若松市
地震による被害により、若松諸聖徒教会は若松聖愛幼稚園を含め敷地内すべての建造物を解体、再建工事を行うことが決定している。それに向け7月上旬に牧師館、園舎からの荷物の搬出を行った。現在はすでに解体作業が始まっている。
- ◆福島・山古志ジョイントキャンプ／新潟県長岡市



- 岩手県 ▲宮城県 ◆福島県内の活動を示します。紙面の都合上、掲載されていない活動もあります。詳細は各ベースのブログをご覧ください。

ホームページ：<http://www.nskk.org/walk/>

コラム あの日あの時、この人と。

③たなばた きれい

毎年8月6日～8月8日に「仙台七夕まつり」が開催されます。日本三大七夕祭りの一つとされ、豪華絢爛な七夕飾りが仙台市中心部を埋め尽くします。一つの飾りが10m以上にもなり、金、銀、銅の各賞を目ざし、数か月前から準備されます。

今年も、仙台基督教会の信徒が七夕飾りを出展しました。この飾りの一部に、「まちの工房まどか」の通所者が染色をしたまゆ玉の薄皮が使われました。制作中の作業風景を「まどか」の通所者8名が訪問、制作過程を見学しました。「わたし、ピンクと茶色と緑やったの」「僕はいろいろやった」と嬉しそう。メモをしながらの見学者もいて、見せてもらうと「うすいまゆ きれい。さんかく きれい。たなばた きれい」と書いてありました。



見学の時はちょうど花飾りの制作中で、信徒の方は「来年は、こういう作業もまどかの皆さんにお願いしたいね」と話していました。このような繋がりが毎年繰り返されたいと思います。

七夕祭りに飾る短冊に願い事も書きました。「パンを作りたい」など「まどか」でのお仕事に関わるものがほとんどでした。出展した七夕飾りは、商店街でたった1つにしか与えられない金賞を受賞しました！（2012年8月 仙台オフィス・スタッフ）



*「まちの工房まどか」（仙台市）は、軽度の知的障がい者が働く通所作業所です。プロジェクトでは、「まどか」が制作するまゆ細工などの商品買い上げ支援をしています。



いっしょに歩こう！プロジェクトニュースレター第13号 2012年9月1日発行

「いっしょに歩こう！プロジェクト」事務局 OPEN 月～金 10:00～17:00 CLOSE 土・日・祝

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3-4-5 クライスビル2F TEL:022-265-5221 FAX:022-748-5321

E-mail: walk@nskk.org ホームページ: <http://www.nskk.org/walk/>